

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人青鳥会 地域生活支援事業所ほほえみ		
○保護者評価実施期間	令和8年1月16日		令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和8年1月16日		令和8年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが楽しみながら主体的に参加できる活動プログラムをチームで立案しています。	5領域に基づいた総合的な支援「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」を軸に支援しています。また、子どもたちの意見も反映した活動を実現できるように取り組みました(外出活動やコーナー、自由あそび時の玩具や素材の提供等)	総合的な発達支援を行えるように年間で5領域の活動プログラムを計画し、総合的な支援体制を確立します。
2	発達、年齢、特性に応じたクラス分けのなかで、小集団(5名程度)もしくは、個別に支援を行っている。スモールステップで支援を実施することは、子どもの「できた」をひきだし、自身や意欲を育む支援を心掛けています。	午前の子どもたちは(1～3歳児)は基本的な生活習慣の習得、愛着形成による人との関わりや遊びの広がりを目指します。また、運動や感覚による遊びや活動を通してさまざまな経験を育めるようサポートします。 午後の子どもたちは(3～5歳児)は、ソーシャルスキルトレーニングや活動プログラムのなかで、文字、数、道具の使い方や自己調整力を育みながら就学に向けてサポートします。	肯定的・反応的な関わりを基本に子どもの主体性を育むことができるアプローチを心掛けます。 運動や感覚活動を通して身体の使い方や気持ちの安定へとつなげることができるようサポートします。
3	家族参加型イベントの企画立案することで交流の場を設けることができます。	年に3回(きょうだい児イベント、夏祭り、みかん狩り)保護者間や支援者との交流の機会を設けています。短い時間ではありますが、楽しい思い出の一つとなるように計画しています。 年に2回程、療育参観週間を設けています。療育の取り組みや子どもの成長をご家族と共有する時間と心掛けています。	家族と共に子どもの育ちをサポートできる事業所となるように心掛けます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職(セラピスト)による直接的支援がないことです。	理学療法士・作業療法士、言語聴覚士、心理的支援などの専門職による直接支援が望まれますが、外部委託契約による間接的支援が主です。(セラピストからの助言や指導または相談となります)	専門性をより高めるために研修を重ねることで、より質の高いサービスを提供できるように心掛けます。
2	保育所等への訪問や連携する為のスタッフが不足しています。	保育所等に直接訪問して情報共有や助言を行うスタッフが不足しており、電話連絡や送迎時での連携が多くなっています。	療育の質を大切にしながら、訪問支援や関係機関との連携も充実できるよう、業務の進め方を見直していきます。
3	地域の方々を招待するなど行事が未計画なところがあります。	コロナ禍以降、施設全体でのイベントを縮小しており地域の方々が参加できるイベントが少なくなりました。	地域共に歩む事業運営の在り方を検討します。